



陶韻クラブ

第14号

ふれあいの旅 金山焼



今年度のふれあいの旅は、7月27日(日)に開催され、参加者14名+1名が充実した一日を過ごしました。当日は、連日の猛暑が一段落して曇り空が広がり、旅行には快適な天候となった。午前8時、公会堂を出発し、みちのく有料道路を経由して浪岡ICから金山焼へは午前10時に到着。記念撮影を行った後、窯場見学へ。ちょうど5連の登り窯に火を入れ始めたところで、薪入れを担当していた外

国人女性からの説明を佐藤さんが英語通訳してくれました。その後、ギャラリーを訪れましたが、クラブ員の方々はランプシェードに特に興味を示していました。



午前11時、金山焼を後にして斜陽館へ移動。



太宰治の文学資料や、大地主であった津島家の豪邸、貴重な展示品を鑑賞した。太宰治の人気は今も高く、ファンや観光客が訪れていました。



昼食は五所川原エールのレストラン街で各自が食事を済ませた。日曜日の昼食時間帯のため混雑していたが、無事に食事を終えました。

午後1時30分、田舎館の道の駅へ向かい、昨年は雨で中止となっていた骨董市へ。しかし、今回は縮小開催されていた。店主の男性によると、道の駅に併設されていたレストランが閉店後は、大規模な開催は難しくなっているとのことでした。午後3時30分、田舎館を離れ、黒石を経由して三沢への帰路についた。笠松峠までの登り道では、バスの前を走る黒い軽自動車が遅い事が話題となり、車内は和気あいあいとした雰囲気でした。午後5時30分、無事に公会堂へ到着。旅を支えてくれた中央タクシーさんからは、お茶やタオルなどを差し入れていただきました。

粘土の管理

今後使用する粘土が決定しましたが、クラブと教室で使用する粘土が異なるため、しばらくの間は2種類の粘土が混在することになります。

「土練機」および「削り粘土入れ」もそれぞれ別々で、明確な表示を

しています。両者の粘土は色が似ているため、取り違えないよう十分にご注意ください。

◎クラブ員用の粘土 シンリュウの赤8号

◎陶芸教室用の粘土 日本セラミックの赤7号



今後の予定

- 8月
- ・8日(金) 釉薬掛け 窯詰め(2班担当)
 - ・10日(日) 本焼き
 - ・15日(金) 休み
 - ・18日(月) 15:00(窯出し)
 - ・21日(金) 休み
 - ・29日(金) 作品搬入・講評
 - ・9月 29日(日) 社協まつり